

2017年3月14日
JUSTICE 事務局

オープンアクセスに関する海外の動向について（報告）

オープンアクセス（OA）を前提とした新たな契約モデル・出版モデルに関して、欧米の最近の動向を報告する。なお、本資料は、JUSTICE 事務局が国際図書館コンソーシアム連合（ICOLC）2016年秋季会合（2016年10月、アムステルダム）で収集した情報および公表文献を調査した内容に基づくものである。

1. OA2020 とその周辺

（1）OA2020（Open Access 2020）

学術雑誌のOA出版への転換を目指す国際的なイニシアティブで、関心表明（EoI）には2017年3月1日現在、世界74の組織が署名をしている。JUSTICEは2016年8月にEoIに署名した。OA2020は、ジャーナルの購読費用をOA出版の費用に転換（フリッピング）することで、新しいジャーナルの出版モデルの確立および学術情報のOA化の促進を目指している。

（2）オランダの事例

① 背景

オランダで公的資金を受けて行われた研究の成果物は、Goldルートにより2024年までに100%OAにするという政府方針が2013年に出された。それ以降、オランダ大学協会（VSNU）は、ジャーナル購読料とOA出版料を組み合わせた契約モデル（オフセット契約）への転換を大手出版社に求め、交渉を行っている。

② VSNU のオフセット契約状況

オフセット契約（ジャーナル購読料とOA出版料を一括して支払う契約）を結ぶことで、大学はジャーナルへのアクセス権（購読）も確保しつつ、所属研究者は個別にAPCを支払うことなく、投稿論文をOAにすることができる。OAにできる論文の範囲は出版社による（下記表参照）。オフセット契約の結果、オランダ国内の研究者のOA論文数は飛躍的に増加した。

【表：VSNU の出版社別オフセット契約状況】

出版社	契約年	APCを個別に支払わずにOAにできる論文
Springer	2017	ハイブリッド誌（約1,700誌）に投稿された論文全て（Springer Compact）
SAGE	2017-2019	ほぼ全てのジャーナル（約900誌）に投稿された論文全て（2015-16は上限20%）

Elsevier	2016-2018	予め選定されたジャーナル（約 250 誌）において、全投稿論文の一部（1 年目 10%まで、2 年目は 20%、3 年目は 30%）
Wiley	2016-2019	ハイブリッド誌（約 1,400 誌）に投稿された論文全て
ACS	2017-2021	全てのジャーナル（約 50 誌）に投稿された論文全て
Taylor & Francis	2016-2017	ほぼ全てのジャーナル（約 1,580 誌）に投稿された論文全て
Wolters Kluwer	2016-2017	2016-2017 年契約ではまだ OA 出版に関する合意はなく、現在交渉中

（3）ドイツの事例

① 背景

2003 年のベルリン宣言（Berlin Declaration on Open Access to Knowledge in the Sciences and Humanities）にはじまり、マックスプランク・デジタルライブラリ（MPDL）が中心となって、OA の実現に向けて積極的な取り組みを進めている。

② MPDL のオフセット契約状況

オランダと同様のジャーナル購読料と OA 出版料のオフセット契約や、APC の機関一括支払いの契約などを、2017 年 1 月現在で 17 社と結んでいる（RSC, Taylor & Francis, Springer, Wiley, BMC, PLoS など）。最近の合意は RSC と Taylor & Francis（どちらも 2017 年から開始）で、価格面以外の重要な交渉結果の一つとして、これまでのような年間購読額の先払いの仕組みから、論文出版状況に応じての月／四半期の後払い（"Pay-as-you-publish"）へ移行したことを挙げている。

（4）イギリスの事例

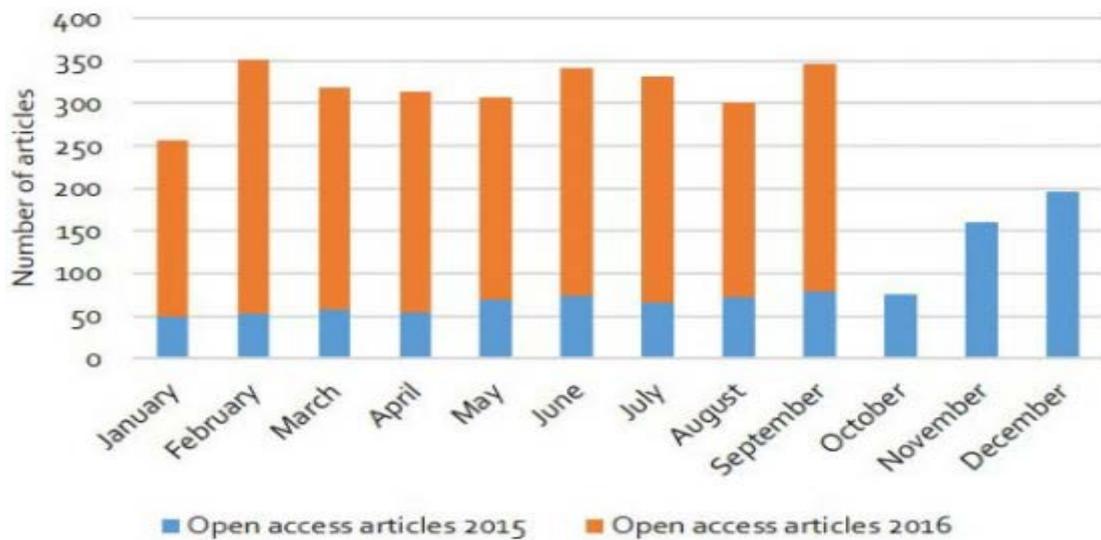
① 背景

2012 年の Finch レポート、英国研究会議（RCUK）方針の発表以降、イギリスは Gold ルートによる OA 化を積極的に進めてきた。

② Jisc の Springer Compact モデル

2016 年 1 月より Springer Compact を正式にスタート。このモデルでは、契約機関は Springer に対し、ジャーナル購読料と OA 出版料を一括して支払う（オフセット契約）。参加する 91 の機関に所属する研究者は、約 1,700 誌の Springer の雑誌に投稿した論文を個別に APC を支払うことなく OA にでき、同時に、Springer の約 2,500 誌へのアクセスもできる。Springer Compact モデルのメリットとして、OA 論文数の増加（下記図を参照）のほか、過去の購読実績による購読額の算出方法から脱却する土壌ができたこと、これまで難しかった CC-BY ライセンス付与の徹底ができるようになったことなどがある。

【図：Springer Compact 導入済英国 91 機関の所属研究者のハイブリッド誌掲載 OA 論文数】



<https://scholarlycommunications.jiscinvolve.org/wp/2016/10/24/offsetting-models-update-on-the-springer-compact-deal/>

(5) アメリカの事例

① 背景

2013年に公開されたホワイトハウス科学技術政策局（OSTP）の覚書で、連邦政府による資金提供を受けた研究成果は全て、出版後12ヶ月以内に無料で公開することが求められるようになった。この方針に応える形で、各大学ではリポジトリの拡充が進み、CHORUS、SHAREといった、公開された研究成果へのリンクを提供するサービスが開発された。また、北米研究図書館協会（ARL）はフリッピングモデルへの懸念を表明している（APC価格上昇の危険性、アメリカには国レベルでの取りまとめが困難などの理由から）。

② Pay it Forward Project（2015年）

カリフォルニア大学が中心となり、北米の大規模研究大学で実現可能なフリッピングモデルを描くための調査が行われた。プロジェクトでは、研究者や出版社に対してのインタビューのほか、論文公表実態、図書館雑誌購読費用、助成金額、APC、CPA（Cost-Per-Article）のデータを集め、複数のフリッピングモデルの試算を行った。

プロジェクトの主な結果は以下のとおり

- ・北米の研究大学では、図書館の雑誌購読予算だけで、大学に所属する研究者の全論文をOAにするためのAPCを支払うことはできない。しかし、助成金も利用すれば支払いが可能となる。
- ・図書館の補助、助成金、著者の個人研究費といった複数の資金によるAPCの支払いモデルが考えられる。
- ・著者にも一部APC費用を負担してもらうことが望ましい。著者がコスト意識を持てば、APCの価格競争が生まれ得るため。

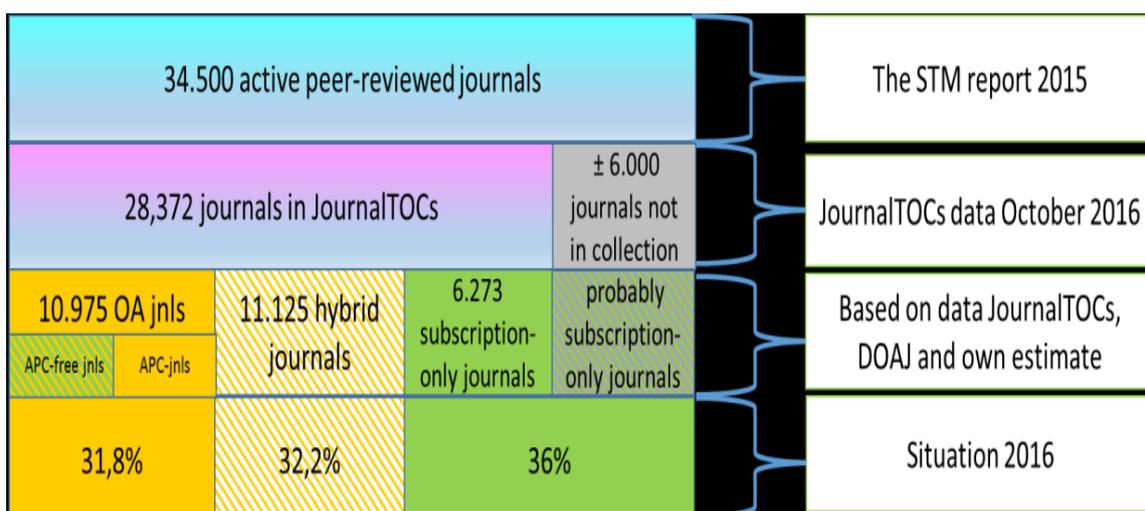
(6) フリップिंगの課題と今後

- ・フリップングを実現するには、世界各国、各機関の Collective Action と APC 価格の抑制が重要なカギとなる。
- ・Collective Action：各大学で論文の OA 化を図る、ハイブリッド誌掲載論文の OA 化を進めると同時に、購読機関は購読価格に反映するように出版社に強く要求していく。
- ・APC 価格：図書館、研究者がそれぞれの役割を持って、APC 価格の抑制を実現することができる（全世界の図書館が団結して交渉をすることができる、研究者の消費者としての感覚が APC 価格の競争を生み出すなど）。
- ・出版社はそのほかの部分でコスト回収を図ってくると予想される（例えば、OA になっていない過去の論文の PPV 価格を上げる、出版社のプラットフォーム利用料（検索料）などを科すなど）。
- ・ドイツ、オランダのオフセット交渉は、短期的な購読費抑制を目指すというよりも、あくまでも論文の OA 化を目指しているのではないか。そのために、今ある購読費用を用いて論文を OA 化していく。その結果として、出版費用が完全に reading 側から publishing 側に移行することで、「購読費」問題は解決する（しかし「APC 価格」問題、そのほかの問題に変わるだけかも？）。
- ・オフセット契約を実現するためには、大学で自機関の論文出版状況（出版論文数や APC 支払額など）を把握していなければならないし、契約の枠組みで OA となった論文のモニタリングもできないといけない。オフセットモデルを導入する際は、そのためのワークフローの協議（交渉）を出版社としていくことになる。

2. OA のビジネスモデル

(1) OA ジャーナルおよび論文数

① Maurits らの試算 (OA ジャーナル数)



Maurits van der Graaf and Leo Waaijers. "How Could an Open Access Scholarly Journal System Look? A Scenario Analysis" (2017)

② Crawford の試算 (OA ジャーナル・論文数)

	2015 年			
	Gold OA ジャーナル (DOAJ)		(参考) 英語査読ジャーナル	
	タイトル数	論文数	タイトル数	論文数
無料	7,350	250,954		
有料	2,974	315,968		
合計	10,324	566,922	28,100	2,500,000
無料%	71.2%	44.3%		

Walt Crawford. “Gold Open Access Journals 2011-2015” (2016), “STM Report 2015”より

(2) OA のモデル

① APC モデル

② non-APC モデル

学協会からの資金、広告、寄付、ファンドレイズ、提供側の他のサービスからの収入による補填、購読側の連携事業(“Library Partnership Subsidy”)など。

③ アーカイブ (“Green OA”)

(3) Library Partnership Subsidy

OA 出版の目的のため、新たに図書館などがコンソーシアムを作り、共同で資金を出し合い OA 出版を目指す取り組み。人文社会科学分野での取り組みが多い。

① Knowledge Unlatched

図書館が資金を出し合い、学術書を OA で出版する取り組み。2013 年のパイロットに始まり、現在では世界約 380 の図書館、55 の出版社が参加し、これまでに 440 タイトル以上を OA で出版した。参加館が増えるほど、一機関あたりの負担額は減ることになる。

図書館からの資金により、出版社は図書のシンプルなオンライン版 (HTML レイアウト版など) を作成し、無料で公開する。出版社は印刷版や付加価値をつけたオンライン版を作成し、販売することもできる。今後は図書だけではなく、ジャーナルにも活動を広げるとしている。

② The Open Library of the Humanities (OLH)

OLH は、アカデミックが主体の Gold OA 出版団体。参加機関からの資金により OA ジャーナルの出版費用をまかない、研究者は費用負担なしで論文を投稿できる。2015 年からスタートし、現在 200 以上の機関が参加、一機関あたりの負担額は約 925 ドルと言われている。

以上